Ayumi TANAKA 田中 あゆみ
短期大学部生活科学科助教

服飾実習授業を通して考える「資質・能力」

はじめに

2016年度より目白大学短期大学部に着任し、洋裁などの実習科目を担当してきた。生活科学科では、興味や関心に応じてファッション、ブライダル・コスメ、カフェ・フード、インテリア、心理コミュニケーション、こどもの6フィールドから自由に学びを組み立てられる仕組みを取っている。そのため、各フィールドの実習科目を全て履修する学生もいれば、講義科目を中心に履修する学生もいる。2016年度、2017年度に担当した生活科学科のファッションフィールドの実習科目を通して、興味や関心、技術など資質・能力のさまざまな学生を指導したことを振り返り、整理したいと思う。

小・中・高における家庭科教育

50歳代以上の方々からよく「昔は、自分の服は自分で縫っていた」、「学生の時に手編みをしたり、スカートを作ったりした」、「若いときにジャケットを作ったことがあるよ」とお話を聞く。どの方も服飾関係の仕事や専門とはしていない。

小・中・高における家庭科教育の指導要領は、時代とともに変遷してきた。裁縫技術に関しては、小学校で手縫いやミシン縫いの基本を学び、それを基礎として中学校の裁縫技術向上へとつなげていく。昭和47年頃の指導要領の改訂が中学校での製作内容を大きく変化させていることがうかがえる。それまでの中学校家庭科では、和裁・洋裁に関しても技能や技術が要求される内容が主で、襦袢、ツーピースドレス、ワンピース、スカート、ブラウス、セーターなどの縫製やふきん、テーブルかけの染色などもその内容に含まれていた。昭和47年以降では、ブラウス、パジャマ、ワンピースと技術的な難易度は易しいものの縫製が中心となり、制作する点数も減少している。時代の変化に応じて、家庭科で取り扱う題材も変化しており、高等学校を卒業するまでに、縫製する時間というのも減少している。

2000年代前半から日本にも次々と海外のファストファッションが進出し、さまざまなデザインの既製服を選んで購入しやすくなった。20歳前後の学生にとって、生まれたときからファストファッションが身近にあり、作るよりも買うということが普通なのである。

入学前までの洋裁技術

実習科目を履修する学生たちに入学前までに制作に取り組んだ作品を聞くと、「デザインを考えて絵を描くことはしていたが作ったことはない」、「家庭科でエプロンやズボンを作った」、「フェルトでマスコットを作った」という回答が多い。作ることに興味はあるが、授業で作る機会があれば制作に取り組むが自ら自宅で制作する機会は少ない学生が多い印象を受けた。一方で、高校時代に家庭科コースを選択し、「浴衣を手縫いした」、「型紙から作成してパンツを縫い上げた」と話す学生もいる。型紙や生地について知識があるので洋裁について自信があり、苦手意識も全くない印象を受けた。授業を始めるにあたって、入学前までに糸や針、ミシンなどに触れる機会に大きく差のある学生たちが実習授業の時間内に終えられる作品、また、これまで家庭科コースを選択した学生も満足できるよう授業を進める必要性を感じた。2016年度のシラバスは着任前に作成したため、実際に授業を進めていく中で、学生たちの技術や要望を聞き、多少修正を加えた。2017年度は前年の学生の反応や授業進度を考慮し、内容を検討することができた。

ドレス制作と日常着の制作

2016年度に担当した「ブライダルファッション」では、全15回を通して学生それぞれが一着のドレスを完成させた。1回目の授業では、これから制作するドレスのイメージやデザインを考える時間とした。その後、制作に入っていくが、制作するアイテムはビスチェとロングスカートに統一をした。アイテムは統一だが、素材の色や装飾するパーツなどは、それぞれのデザインの自由とした。アイテムを統一した理由は、知識や技術力の異なる学生の進捗をできるだけ同じにし、指導するためである。授業の始めに制作の手順のプリントを配布し、手順の解説をした。ビスチェ、ロングスカートの順に制作を進めた。ビスチェ制作では、縫い代付きの型紙を用意し、裁断から行えるようにした。ビスチェは体にぴったりと沿うようにデザインされていたためパーツは多く、制作する中で生地の方向や縫い代、縫製の手順について学生は理解をすることができたと感じる。その後、ロングスカートは型紙のトレースから行い、5枚はぎのウエストベルト付きのロングスカートを制作した。履修者全員が完成させることができたが、15回の授業を通して、改善すべき点をいくつか感じた。まず、これまでに

ドレスを作ったことのない学生ばかりのため、どれくらいの時間配分で制作を進めなければならないのか学生は理解できていなかった。そのため、初めの方の回は、制作がなかなか進まず、後半になって授業時間後も残って制作をする学生がみられた。次に、毎回の授業で進めるべき段階を示していたが、学生によって大きな進捗の差がみられた。そして、制作手順について説明は行っていたが、冊子などで毎回の制作進捗に関する学生の感想をフィードバックしていなかったため、それぞれの疑問に関して詳細に対応することができなかった。

2017年度に担当した「ファッションクリエイト実習」では、全15回を通して9点の作品を完成させる内容とした。前年度の「ブライダルファッション」での反省を踏まえ、15回の授業の中で、9作品を作ることとしたため、学生は制作にかけられる時間を正確に把握することができ、集中して取り組むことができた。また、一つの作品の制作が終われば、また新たな制作を開始するため、学生は進捗を合わせることができ、今回は誰よりも早く完成させてやろうという気持ちで臨む学生も見られた。そして、初回の授業でしおりを配布した。しおりには、制作作品と手順を記載し、各回で感想を書き込めるようにし、完成した作品と合わせて提出することとした。手順にはないが、制作で注意すべき点をそれぞれ記入することも伝えていた。この実習で制作した作品は、フリル付きトートバック、スタイ、ベビー帽、リバーシブルペットウェア、ベビーロンパース、子供用チュニック、付け衿、フリルエプロン、Aラインワンピースである。縫うパーツや大きさの小さいものから、大きいものへと順に制作を進めていった。今回も縫い代付きの型紙を配布したが、子供用チュニック、Aラインワンピースは型紙をトレースするところから制作を進めた。しおりを活用したことで、学生が制作手順を理解しているか、疑問に感じていることは何かなどを知ることができ、毎回の授業でフィードバックを行うことができた。

まとめ

実習授業を通して、指導の中で効果的だと感じたのが、しおりの活用だったように感じた。

しおりには感想と手順で気を付ける点などを記入するようにと学生に伝えていた。授業中に、手順の説明を行うが、その際、注意する点や理由を合わせて説明をしている。また、制作段階の途中で必ず、教員のチェックを受けてから進めるようにも伝えている。チェックを行うことで、丁寧さや手順の間違いなどを指摘することができるからである。

毎回、作品と一緒にしおりを提出させた。履修した中で、上達がみられた学生は、自分の失敗しそうになった工程で注意すべき点を必ず書き込んでいた。自分が理解できるよう、自分なりの言葉で説明を書き、場合によってはイラストも加えていた。一方、作品の完成に関しての感想だけを記入する学生も見られた。この違いは、制作に取り組む姿勢の違いとも一致しているように感じた。注意点を記入する学生は、同じ失敗をしないように心がけ、丁寧な仕上がりになるよう工程ひとつひとつを進め、結果として授業回の後半には予定よりも早く完成させることができるようになった。感想のみ記入する学生には、作りたい作品とそうでない作品とでは取り組む姿勢にむらがあり、仕上がりの丁寧さにもむらがあった。しおりを活用することで、それぞれが自分に合ったソーイングブックを作り上げていたように感じる。毎回、熱心にしおりに書き込んでいた学生は、その熱意を切らすことなく最後まで制作に取り組むことができたように感じる。

おわりに

豊かな生活を過ごすための技術を学ぶ実習授業であり、卒業後も学生たちが、市販のソーイングブックなどを利用して、日常のさまざまな物を作るきっかけとなる

ようにと指導をしている。実習授業であってもただ作るだけでなく、必ず振り返りを行い、手順や理由などを理解するということが、学生の上達へと結びついているように感じた。ただ、しおりの活用だけでは、履修者全員の上達に対応することができていない。そして、学生が興味をもって取り組みたいと感じる身近にある実習課題を選ぶことや、制作方法を応用して作ることができる作品なども関連して紹介することで、授業後も実践していきたいと強く思える授業内容になるように感じた。さまざまな資質・能力を持つ学生に合ったシラバスの内容の検討や筆者自身の指導力向上を目指し努力していきたい。

参考文献

西之園君子、中村民恵「戦後における小・中・高等学校の家庭科教育の変遷（第一報）―学習指導要領における被服教育指導内容の改訂―」鹿児島純心女子短期大学研究紀要　第30号　pp.11～20、2000

文部科学省「小学校学習指導要領解説　家庭編」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2009/06/16/1234931_009.pdf　閲覧日2017/11/30

文部科学省「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2011/01/05/1234912_011_1.pdf　閲覧日2017/11/30

文部科学省「高等学校学習指導要領解説　家庭編」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2010/07/29/1282000_10_1.pdf　閲覧日2017/11/30